

錦城に吹く新たな風

ようこそ！新たに9名の先生が赴任

錦城高校にこの春、新たに9名の先生が着任された。先生方の高校生活や趣味に迫る。第一弾の今回は、英数国の3科目6名の先生にインタビューをした。
(編集部共同取材)

英語科

八木茂那子先生

2学年の英語を担当されている八木茂那子先生。もともと父親が教師だったことに影響を受け、教師を志したという。高校時代は美術部に所属していた。担任の先生に自分が描いた絵をプレゼントしたこともあったそう。座右の銘は「諦めない」。オリンピックのスタートに出場していた、りくりゆうペアの演技に感動し、読んでインスピレーションに響いた言葉だそうで、「なに

大久保桃花先生

1、2学年の英語を担当されている大久保桃花先生。先

竹内優輝先生

1学年の数学を担当されている竹内優輝先生。竹内先生は錦城の卒業生で、昨年教育実習で授業を担当した。教育実習では、時期が5、6月という事もあり、生徒の授業を受ける態度が慣れている感じがした。一方今は、まだ授業に慣れていない感じがしたそう。生徒との距離は教育実習の時よりも今のほうが近くなっているという。

数学科

森真司先生

2学年の数学を担当されている森真司先生。森先生は銀行で働いていたが、地元の子たちを育てたいという思いから錦城に赴任してきたという。学生のときから数学が得意で、先生の考えの基盤には数学があると語る。生徒には高い志を持って勉学に励んでほしいと語る。文系の人でも将来、数学は仕事を遂行する上で必ず役に立つから、数学



ごとも諦めたらそこまで、努力してきたことを結果が出るまで続けることが大切だと感じました」と語った。錦城に赴任することが決まると、錦城に来るのを楽しみにしていたと話す八木先生。「この生徒はいい子たちばかり」と笑顔を見せる。錦城生に向けて「三兎を追ってください。どれが捕まるかは分からないし、一回で捕まると

先生自身は中学校では箏曲部に所属していたが、高校時代には特に部活には所属していなかったという。最後に、錦城生に向けて「健康第一にして、色々なものに興味を持ってください」とメッセージを送ってくれた。

森先生の母校の校訓が「百折不撓」だったそうで、「誠心誠意、生徒に接するよう心がけています」と話してくれた。「失敗して悔いそうになっても決して諦めないで常に取り組む姿勢をなくさないでほしい」と錦城生にメッセージを送った。

三澤葉子先生
2学年の数学を担当されている三澤葉子先生。先生を目標にしたきっかけは、子供が大好きで、成長を見ることが楽しくみだからだと話す。先生は錦

バラの育成に挑戦

生物部 花壇にて季節の花を見に行こう！

数年前から、正門を入って正面の1号棟前の花壇に生物部が花を植えている。今年、バラの育成に挑戦している。担当の水上渚さん(21)によると、生物部では3か月に一回の頻度で季節の花に植え替えている。もともと生物部内でバラを育て



バラと綺麗な花々

つバラだ。「目当たりの悪い1号棟前の花壇に植えるのに必要な条件なのできれいな花を咲かせ、耐陰性を持つバラを探しました」と水上さんは説明してくれた。2本のバラの隣にはニンニクが植えてある。ニンニクの匂いで虫が寄り付かなくなるという。今後の活動としては、今ある花壇以外の場所に植物を植え、食虫植物などの特殊な植物を育てることに挑戦したい、と話してくれた。(梅)

生物部の新たな住人！

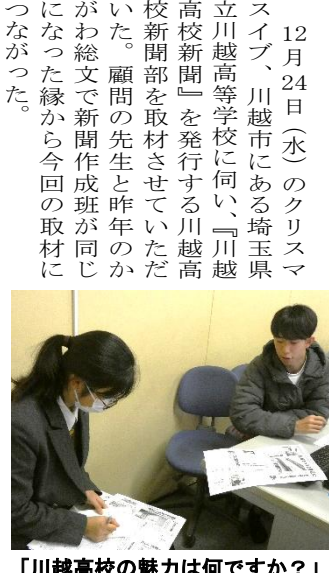
4月20日(月)、生物部に迎えられたヒメウズラの雄。名前は「ニコ」。元々生物で飼っていた「アメ」と「ユキ」の子もだ。60回生が自宅で孵化させたそう。かわいいねえ。



カメラに怯えるニコ

生徒に寄り添う新聞をつくる

県立川越高校新聞部を訪れて



「川越高校の魅力は何ですか？」

12月24日(水)のクリスマススイブ、川越市にある埼玉県立川越高等学校に伺い、『川越高校新聞』を発行する川越高校新聞部を取材させていただいた。顧問の先生と昨年のかかわりで新聞作成が同じになった縁から今回の取材につながった。

一般紙と差別化するために、校内の出来事や川越に関する記事をメインに作成しているという。川越高校新聞の特徴の一つとして挙げられたのが、「川越高校新聞」で印象に残った特集は、備蓄米やコメ不足について、JAやコメ販売店、近くのスーパーなどに取材したものだそう。このように学校新聞の良さを生かし、



困り取材ならぬ、困られ取材を受けた

部員にも意見を聞いてみる。と男子校の雰囲気は、仲間意識が強くノリがいいとの声が上がった。同級生だけではなく、先輩後輩とも仲がいいという意見には、「わかるわあ」と思わず声を漏らす人もいた。そのような男子校ならではの良さが多くあるため「男子校を残していく意義はあるのではないかと感じます」と話す。

国語科

三ツ松富士子先生

2学年の国語を担当されている三ツ松富士子先生。三ツ松先生が教師を目指したきっかけは、高校時代の先生がとても面白くて、私も教師になろうと思った」と語ってくれた。奈良県にある大学に通っていた三ツ松先生は、その大学の近くにある古城にきて、

紫羅欄花
文藝部とのコラボ企画「紫羅欄花」連載第二号。本企画は、文藝部有志のみなさんが、毎号書き手を変えて話を紡いでいく。話をついでいく。リレー小説となっている。ぜひ楽しんでほしい。

自称幽霊は髪を靡かせながら、そう言った。「だからボッチをんでしょー」余計なお世話だ！

(文藝部部長より)紫羅欄花をお読みくださりありがとうございます。文藝部は長期休みごとに『天舞』『透夜』という部誌を頒布しています。現在、7階部室前と図書室前にて無料配布しているので、気になった方はぜひ読んでいただくと嬉しいです！また、感想などございましたら、7階部室までぜひいらしてください。お楽しみいただけると幸いです。

生徒会動静

2026.4.8~4.22

- ▽保健委員会 4月13日(月)
- ▽錦城祭実行委員会 4月20日(月)
- ▽図書委員会 4月20日(月)
- ▽新聞委員会 4月21日(火)
- ▽球技大会実行委員会本部 4月21日(火)
- ▽球技大会実行委員会 4月22日(水)

次回に続く